

## 安全登山講演会記録

日時・場所：平成 31 年 1 月 19 日（土）13：30～16：00 於・埼玉会館

講師：埼玉県警山岳救助隊副隊長 工藤 大介氏

参加者数：支部会員 27 名、一般 27 名 合計 54 名

（1）ご自身は登山経験豊富だが警察では様々な部署を経験され、普段は警察官として制服を着て勤務しており、山岳遭難の報が入れば登山装備を身につけ山に入る。山岳救助は特別警邏という業務で出動一回 500 円の手当である。現在 30 名ほどの隊員がいるが、こんな待遇でも命を懸けて勇んで出動してくれる。署内の状況もありなかなか難しい運用もしている。救助に入って 3 日間が一区切りでその後は徐々に人数が減らされる。山岳救助のために市内の治安悪化を招くわけにはいかない。だから登山届が出ていないと捜索範囲が広範になり救助隊の負担が重くなり、救助もうまく進まないことになる。



山岳救助隊紹介の PR ビデオ（20 年の歩み）が映写され生々しい遭難救助の場面が紹介された。

（アンケートから…救助隊の大変さを認識した。

頭が下がる。ご努力に感謝したい。低山でも必ず登山届を出そうと思った）

（2）昨年度の埼玉県の遭難事故 51 件（内死亡 4 名、単独行 26 件、50 歳以上 33 人、道迷 24 件）の詳細な一覧表が配布され紹介があった。特に特徴的な事例について解説があった。詳細を知ると遭難事故の背景、原因が明確になり、あきれるような事例もあったが、自分の反省材料にもなった。

（アンケートから…低山の事例が多く、注意すれば防げる事故も多い。持ち物にももっと注意が必要だ。家族に必ず行先を伝えておく重要性。自分の年齢、体力を考え安全な登山を楽しみたい）

（3）インターネット活用の紹介があり、

①「みんなの足跡&地図」…登山者がたどったルートが記録されており、道迷いしやすい場所等が分かる。

②青森県警 HP からユーチューブ「着衣の認識性テスト」の紹介…着衣の色で「へりからの認識性に大きな差がある。オレンジ、赤が認識しやすく、グリーン黒は認識しにくい。木を大きく揺らす。レスキューシートを広げるのも効果的。

③スマホの地図アプリでの確認方法

（アンケートから…とても参考になった、自分の持ち物を確認したい。紙の地図も重要だ）

#### (4) その他

①ココヘリの紹介

②山岳保険の重要性

③山中の赤テープに頼らないこと、登山標識とは限らない。

④一般登山道でもヘルメット着用を励行しよう。充電器、予備電池は絶対に持参しよう。

⑤昨年の埼玉県有料ヘリ回数は6回で合計35万円だった。対象エリアは6エリアでその明示カードが配布された。また、県警作成の安全ガイドパンフが配布された。

⑥最後に安全登山委員会から「山と溪谷 2月号」に飯田前副隊長が寄稿されていることが紹介された（単独行登山の注意事項特集で単独で登山を楽しむ方には必読です）。

工藤副隊長はお話しも上手でご準備も万端であり、登山を愛する気持ちと遭難を防ぎたいという強いお気持ちが十分に伝わった。



印象に残ったお言葉は、

「登山は誰でも自由に楽しめます。ただし、山は誰に対しても平等です」

埼玉県警の遭難事故防止に対する姿勢と救助に対する取組と私たち登山者がやるべきこと、注意すべきことがしっかり認識できる大変有意義な講演でした。また、工藤副隊長にご指導いただける機会に期待しましょう。

安全登山委員会 高橋 努記